Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

I-A-12

潰瘍性大腸炎の漢方療法　第Ⅱ報

国立小倉病院　消化器科
○水　野　修　一

はじめに：潰瘍性大腸炎の漢方治療に関しては、充分量の現代医薬品に漢方薬と併用した報告例が大多数である。漢方薬を主とし、現代医薬品を少量併用した症例報告は、演者の報告以外にはない。今回は、現代医薬品による副作用のため、漢方治療を希望して来院した症例を示し、潰瘍性大腸炎の漢方治療の方針を示したい。

症例：川○　修　42才　男性

臨床経過：１９８７年10月から粘血下痢便が続き、某病院で入院精査を受く。約１ケ月して潰瘍性大腸炎と診断さる。ステロイド、イムランおよびサラゾピリンの投与を受けたところ、全身に中毒性皮疹をきたし、肝障害をきたした。１９８８年２月、漢方治療を求めて、演者のもとに受診し入院した。中等症の潰瘍性大腸炎と診断し、イムランとサラゾピリンを中止、人参湯とプレドニゾロン２Ｔとした。肝障害と皮疹は急速に消退し、人参湯合芎帰膠艾湯にプレドニゾロン１Ｔを併用として、約１ケ月の入院合外来治療にて経過観察が可能となった。

潰瘍性大腸炎の漢方療法の方針

演者はこれまで10症例について、漢方治療を主とし、小量または短期間の現代医薬品の併用治療を行った。まったくの無効例は１例のみであった。５例は漢方薬単独例、４例には、ステロイドまたはサラゾピリンを併用したが、量は通常の治療に用いられるものの半量から３分の１であった。治療方針は次の通りである。

重症例：人参湯合芎帰膠艾湯、または柴苓湯、プレドニゾロン６錠を短期間併用。

軽症例：人参湯、または人参湯合芸膠湯、時にサラゾピリンを２～４錠併用。

中等度症：軽症例に準じ、ステロイドの少量またはサラゾピリンの併用を行なう。

併柴苓湯に関しては、すでにコントロールされている症例が、何かの原因で急性増悪した場合、数週間用いてみる方法が最もよい。

NII-Electronic Library Service